

# 保育内容「表現」における教材研究

－紙芝居・パネルシアター・ペープサートを作って、演じて－（Ⅱ）

井戸裕子

（東京家政大学）

## 1. 研究の目的

本研究は、日本保育学会第54回大会にて、発表した研究の継続研究である。

保育教材といわれている幼児を対象とした文化財の“紙芝居” “パネルシアター” “ペープサート”を作成し、子ども達の前で演ずることをとおし、保育者を目指す学生が得られることは何なのかについて調査したい。

## 2. 手続き・方法

この調査は、保育内容「表現1」の授業内課題の一部である。

調査対象者は、東京家政大学短期大学部保育科2年生240名

この学生の提出したレポートからの報告で、統計処理による結果は期待していない。

“紙芝居” “パネルシアター” ペープサート “  
《作成の手続き》

- ・ 学生は、“紙芝居” “パネルシアター” “ペープサート” それぞれの特徴を学んだ後、各自表現したい教材を選択決定し、製作する。
- ・ 子ども達に 何を伝えたいのか “ねらい” を設定させ、内容を検討し、脚本化する。
- ・ 対象年齢も考慮に入れるように指示
- ・ 白ボウル紙、不織布（Pペーパー）、薄口画用紙、ペープサート用の竹棒、クラフト封筒0号等、授業内に各学生必要数配布描画材は、各学生に、準備させた。

《作成の期間》

- ・ 平成12年5月16日、23日、30日（週1回90分授業）
- ・ 5月30日 提出（作品本体、演じ方、脚本を同封）

- ・ 7月11日 前期授業終了時に、作品を返却し、夏休み期間中に、子ども達の前で実践したレポートを 9月29日 後期の初日に提出

## 3. 結果および考察

子ども達の前で実践したレポートには、①製作した教材の種類、②作品のタイトル、③ねらい、④対象年齢、⑤実践年月日、実践場所、実践時間、⑥実践対象者（年齢・人数）、⑦実践結果、⑧実践についての考察、⑨感想 をB5版レポート用紙 3枚にまとめて提出させた。

実践結果

演ずること……（子ども達に）

①興味の持たせ方（導入の仕方）

- ・ 自分が作った『手作りの作品』であることを知らせることにより興味深く見てくれる。〈A-1〉～〈A-4〉【※1】
- ・ 低年齢児1、2才児の場合 手作りということを強調しても理解できないが、パネルシアターの舞台のセットを準備している姿をみせることにより、子ども達が自主的にパネルの舞台の近くに椅子を運んで来て、『何かおもしろそうなことがはじまりそうだ』と興味をもって集まってきた。〈B-1〉
- ・ 提出用クラフト封筒から作品を取り出す姿をみせることにより、子どもの興味の示し方が異なる。
- ・ “あたまかたひざポン” “登るよコアラ” の手遊びをしてから、子どもを集中させた後に、パネルシアターを始めている。
- ・ 演ずる場所（環境設定により、子ども達の興味の示しかたもちがってくる）パネルシアターの舞台と子ども達の椅子の位置がはなれすぎていると子どもの興味がうすれる…… 伝わりにくい。

この学生は子どもが楽しめる環境、雰囲気準備す

ることの大切さと、教材を最大限に生かす保育者の技術・表現力が必要だと感じている。

## ②演じ方..... (技術の面、態度の面)

\* まず態度は演じ手が楽しみながら演じることで、子供達もたのしめる。演じ手が明るい調子で子どもに反応を求めると子どもも笑顔で返答してくれました。(演じ手の態度が子どもに影響力をあたえると感じとっている。)

\* 演じる学生が緊張していて、子ども達を上手にひきこめなかった。子どもはただ話を聞いているだけ... 本人の反省点として、“もっと練習をして、手際よく演ずることによって、子どもの集中力が切れなくすることがたいせつである

\* パネルシアターを貼る位置はがすタイミング、移動させるなど、ペープサートの動かし方、紙芝居でもさっと抜く、ゆっくり、ゆらしながらなど、タイミングの問題、技術面のことも加わってきますが、何より練習不足による自信のなさが緊張と不安を表現し、子ども達に伝わった例。

\* 演じている際中の子どもとの対応の仕方(これも、演じての態度に入ります)

A=子どもの反応に答える..... ある程度口で答える(子どもの反応に目だけで答える)

子どもの反応に答えすぎて、静かに聞いている他の子どもへの配慮がなくなってしまった。

B=子どもの反応を見る余裕もなく、自分が演ずるので手いっぱいのため、子どもの反応に答えられない.... (練習をもっとして、自信をもって演じられれば...)

C=子どもの反応をまって、ゆったりと子どもの気持ちをくみとりながら演じられた(予想する子どもの活動を考え、内容を良く知って十分に練習し、作品を自分のものにしてているため、あまり緊張もせず、おちついた態度で演じ、子どもを受容できた。)

D=子どもの反応に助けられて

- 演じたパターンで同じものが出てくると、口ずさんだり、一緒に歌ってくれる
- ストーリー内容を子どもが知っている場合... 先を言ってしまう例ブレーメンの音楽隊で子どもは『泥棒は、4人だよ』... 学生の作品は泥棒が2人のため..... 子どもの反応のどう答えるか。

子どもの言葉や反応を十分の読み取り、聞いて、物語りを進めていくと、もっと楽しく面白くなった.... と反省している。

\* 技術面からは、声の出し方。声音にバリエーショ

ンがつけられたか。その登場人物の特徴をつかんで表現できたかどうか、について反省点がみられる。

音量・速度・間の取り方なども考えられた。

\* 話しの内容では、実践対象者に合った演じ方が出来たかどうか。

対象年齢と、実践対象者(実践した相手の年齢)がぴったり合う場合は良いのだが、実践した相手が、自分の考えていた対象年齢より低い場合は、ことばも、内容も演じ方もかえないで演じたためみごとに失敗した。⇒むずかしいことばを簡単にして、内容をよりわかりやすくかえ、演じ方を見てくれる相手の年齢に合わせて演じることにより、内容を理解された..... 発達による理解度がちがうということに気がついてきた。

## ③演じ終わってからの子どもの反応

『早い』『短い』『もう1回やって』と言われ3回も演じた.... 時間にゆとりがない場合でも絵だけを見せるなどの対応をした。

『絵を見せて』『うしろもみせて』(これは紙芝居の裏面のこと)『ぼくにも作れる?』『つくってみたい』『その紙、どこで、どうやって手に入れることができるの?』と5歳女兒が真剣に聞いてきました。

『やってみよう』とパネルシアターにさわりにくる『おもしろかった、またやって』など子ども達からの反応を学生がうけとり、また演じてみようという気持ちになった。

## まとめ

### ◎手作り教材を自分で作る意味

- この作品を作り、演ずることによって、何を伝えたいのか“ねらい”考え話しの構成を意識化する。
- 内容を把握し理解する。
- 自分で作ることにより、愛着が湧く。
- 子ども達にも、自分達も作ってみたいという興味や関心を育てることが出来る。

### ◎演ずる意味

- 子ども達の前で演ずる・発表することにより、伝えたいことをどのようにしたら伝わるのか?相手の気持ち・反応に対する見通しや臨機応変な態度など、保育の流れの中で、導入の仕方・次の活動へのつなげ方など、実践を通して考えることが出来た。

### 引用文献

井戸裕子 保育内容「表現」における教材研究 一紙芝居・パネルシアター・ペープサートを作って、演じてー 第54回日本保育学会研究論文集 p. 400, 401 2001